

コラム

仮想空間で観光需要の掘り起こし

—大人気ゲーム『あつまれ どうぶつの森』を活用した観光 PR—

すずき りな
鈴木 理奈

山梨県 観光文化部 観光資源課 地域資源活用担当 主任

1 「あつまれ どうぶつの森¹」起用の経緯

本県では、郷土の英雄、武田信玄公の命日である4月12日(新暦では5月13日)を中心に様々な祭りが県内各地で行われている。その中でも、甲府市中心部を会場に行われる「信玄公祭り²」は、県下最大のお祭りとして県民や観光客に親しまれている。

令和2年4月も例年通り盛大に信玄公祭りを行う予定であったが、全国的な新型コロナの拡大により、開催を秋に延期することとした。その後、新型コロナの影響は衰えることなく、令和2年の秋に延期していた信玄公祭りも見送らざるを得ないこととなった。本県を代表するイベントである信玄公祭りの二度にわたる延期に対する落胆は大きかった。

しかし、このコロナ禍の状況は、観光のあり方を考える好機となり、これまで実施してきたものとは別の方法での信玄公祭りの開催を模索した。開催にあたり、三密の回避や非接触といった新型コロナの感染を避けるための安全面の確保が課題となった。そこで考案されたのが、インターネットを活用した「ネット de 信玄公祭り」である。「ネット de 信玄公祭り」では、インターネットと新聞紙上の参加型イベント「あなたも信玄博士!クイズ大会」や投稿型の「信玄公お絵かきコンテスト」などを行った。

「あつまれ どうぶつの森」(以下「あつ森」という)

を活用した観光 PR は、新型コロナによる行動制限に関係なく、仮想空間で自由に活動ができるため、当時、爆発的なブームとなっていた「あつ森」の知名度を活かし、ゲームを通して信玄公祭りや山梨の魅力をもっと PR することで、次回開催する信玄公祭りや次年度に迎える信玄公生誕500年³への期待を高めるとともに、信玄公や山梨に関心を持つ層を増やすことを目的に、「ネット de 信玄公祭り」の一環として、また、新しい形の観光 PR として実施することとなった。

2 「かいのくにしんげん島」の制作

島のコンセプトは、「信玄公祭りの再現」とし、信玄公祭りの賑やかな雰囲気の中で山梨県内のロケーションの再現(舞鶴城公園での出陣式、武田神社、甲府駅周辺等)を行うこととした。島の再現性を高めて、多くのユーザーに訪訪してもらうためのノウハウや知識、スキル等が当課職員には不足していたため、「あつ森」の遊び方に精通していて、信玄公祭りや山梨県の景色を再現するだけのスキルがある、美術科目を受講する地元の大学生(山梨大学から4名、山梨県立大学から1名)と他部局の若手職員1名に協力をいただき、当課職員2名を加えた合計8名のプロジェクトチームを令和2年12月に結成した。

「あつ森」では、オリジナルの家具や小物といったアイテムが豊富に存在するが、信玄公祭りや山梨の景観を再現するためには、それらのアイテムだけでは再現しきれないため、大学生や若手職員がマイデザイン機能を活用して、自分たちの手で

1 任天堂(株)から発売された、無人島を舞台とした人気シミュレーションゲーム。Nintendo Switch Online に加入すると、インターネットを通じて他の人の島に遊びに行くことができる。

2 メインイベントの甲州軍団出陣は、県内各地から1,000名を超える軍勢が集結する世界最大級の武者行列として有名。

3 令和3年度は、武田信玄公が大永元年11月3日に誕生して500年という記念すべき節目を迎えることから、信玄公生誕500年を祝して様々な事業が行われた。

デザインを描くことで、実物とそっくりな景観や小物を再現してくれた(図1・図2)。



図1 マイデザインで再現した駅前信玄公像



図2 舞鶴城公園と信玄公祭りのメインイベント「甲州軍団出陣」を再現

また、チームメンバーと意見交換を重ねて、島全体を武田菱に見立てた形に成形し、各区間に祭りの見どころを作ること、島に遊びに来た人が楽しめるように迷路やおみくじルーレット、武田菱をあしらった鎧や着物を作ることなど、たくさんの遊び心のある仕掛けを用意した。

結成から約2ヵ月間、チーム一丸となり、アイテムや素材集め、マイデザイン制作、島の成形等、すべて自分たちの手で進め、遂に令和3年2月に「かいのくにしんげん島」が完成、公開(夢番地: DA

-0360-6676-5266)となった(図3)。

3 取組みの効果

島の公開後、「あつ森」を活用した観光PRは、地元の大学生と連携し、コロナ禍における新たな観光PRの取組みの好例として、知事やメディアの方に、ゲーム機を使ったデモンストレーション等を行ってもらった。「かいのくにしんげん島」完成報告会を行った。都道府県が主体となり、「あつ森」を活用した観光PRを行うことは、全国でも初の取組みであったため、多くのメディアに取り上げられ、6,592人(令和4年8月25日時点)もの多くの方に島に訪れていただいた。

信玄公祭りの再現をテーマにした第1弾「かいのくにしんげん島」の公開から約半年後、新型コロナウイルス第5波が猛威を振るう中、昇仙峡や富士山と五重塔など、山梨県内の魅力ある観光スポットの再現をテーマにした第2弾「かいのくにしんげん島」(夢番地: DA-3706-8673-6717)を令和3年8月に公開。県境を跨ぐ移動が自粛される中、故郷に帰りたくても帰れない山梨県出身者から、山梨の景色が再現されていて故郷に帰った気分になった等、嬉しい言葉をいただいた。

4 取組みを終えて

コロナ禍で物理的な接触や交流が制限される中、仮想空間での観光PRは新しいPRの形として非常に有効であった。また、「どんな島ならユーザーは楽しく思うか」といったユーザーファーストの視点から生まれる遊び心のある島の仕掛けは、普段から「あつ森」で遊んでいて、「あつ森」を熟知している大学生たちの協力があったから実現することができた。この場を借りて、今回の取組みに御協力いただいた大学生を始め、すべての皆様に感謝を申し上げる。

新型コロナウイルスの流行により、仮想空間での観光PRはもはや珍しいツールとなった。今後も現実世界と仮想空間、双方をうまく活用しながら、より効果的な観光PRを行っていきたい。



図3 「かいのくにしんげん島」全体図